2018年セレモア®
春を呼ぶコンサート

テノール
福井 敬
Kei Fukui

ピアノ
久元 祐子
Yuko Kisamoto

日本が世界に誇るスーパー・テナー
福井 敬さん。　日本人で唯一の
ベーゼンドルファー・アーティスト 久元 祐子さん。
春のひととき、お二人の温かいハーモニーで
心に響く日本の歌、心に残るピアノ名曲
そして 情熱的なアリアを
ゆっくりとお楽しみください。

2018年 4月 8日(日)
14：30 開演(14：00 受付・開場)

《会場》

セレモアコンサートホール武蔵野
株式会社セレモア 立川総本社２階

ヴェルディ：オペラ「リゴレット」より“女心の歌”
プッチーニ：オペラ「トゥーランドット」より
“誰も寝てはならぬ”
ディ・カプア：オー・ソレ・ミオ
中田喜直：悲しくなったときは
武満徹：小さな空
小林秀雄：落葉松
ドビュッシー：月の光　　他

お問合せ　セレモアコンサートホール武蔵野　0120-77-1121

プロフィール

〈profile〉

福井 敬（テノール）

国立音楽大学及び同大学院修了。文化庁在外派遣等により渡伊。
イタリア声楽コンコルソミラノ大賞（第 1 位）、芸術選奨文部大臣賞新人賞、
五島記念文化賞オペラ新人賞、ジロー・オペラ新人賞及びオペラ賞、出光音楽賞、
エクソンモービル音楽賞本賞など受賞多数。14 年には二期会「ドン・カルロ」の
優れた演唱等により " 第 65 回芸術選奨文部科学大臣賞 " を受賞。二期会「ラ・ボエーム」
ロドルフォ役での鮮烈デビュー以来、新国立劇場「ローエングリン」「トスカ」「罪と罰」等、
びわ湖ホール「ドン・カルロ」「スティッフェーリオ」「こびと」等、
藤沢市民オペラ「道化師」「魔笛」等、二期会「カルメン」「蝶々夫人」
「ファウストの劫罰」等数々のオペラに主演。特に「トゥーランドット」カラフ役は
様々なプロダクションで絶大な称賛を得ている。
近年では二期会「オテロ」「パルジファル」「ホフマン物語」「ダナエの愛」
「トリスタンとイゾルテ」、びわ湖 & 神奈川県民ホール「アイーダ」「タンホイザー」
「椿姫」「ワルキューレ」「リゴレット」「さまよえるオランダ人」、兵庫県立芸術
文化センター「トスカ」等で、他者の追随を許さない輝かしい声、英雄的かつ
ノーブルな存在感、深い苦悩の表現で観客を魅了している。ソリストとしても
ウィーン・フィルをはじめ、様々なオーケストラと共演。小澤征爾やズビン・メータ等、
国際的指揮者から厚い信頼を得ている。またオリジナリティ溢れるリサイタルに
おいても彼の世界観に多くの人が共感し続けている。国立音楽大学教授。
東京芸術大学非常勤講師。二期会会員。

久元 祐子（ピアノ）

東京藝術大学音楽学部を経て同大学院修士課程を修了。ウィーン放送交響楽団、
ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、ウィーン・サロン・
オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。
知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を
受けている。音楽を多面的に捉えたレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも
紹介される。ブロードウッド（1820 年製）ベーゼンドルファー（1829 年製）、
プレイエル（1843 年製）、エラール（1868 年製）等のオリジナル楽器を所蔵。
歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組む。ショパン生誕 200 年の
2010 年には、全国各地でプレイエルを用いての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールに
おいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011 年ウィーンでのリサイタルは、
オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、日本人で唯一ベーゼンドルファー・
アーティストの称号を受ける。イタリア国際モーツァルト音楽祭にたびたび招かれ
リサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。
これまで CD12 作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞 CD 特薦盤、
レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン“テレーゼ”“ワルトシュタイン”」は
グラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」と絶賛される。
著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」（音楽之友社）
「モーツァルトはどう弾いたか」（丸善）など多数。
国立音楽大学教授。http://www.yuko-hisamoto.jp/